

全国協議会 ニュース

2006年3月1日発行 第165号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:品川 保弘
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

財団は諸問題の早期解決を

●事務局移転問題

全国協議会は、1月30日、骨髄移植推進財団に対し、別掲の要望書を提出しました。骨髄バンクを通じて移植数が急激に伸張するなか、業務量も増大しており、現在の財団事務局は手狭になっていくため、2005年度予算で全面移転費用が計上されました。ところが、ここへ来て、今年度中に一部移転をおこない、来年度にさらに別の建物に全面移転するとの方針が、財団の常任理事会で提案され、承認されました。一部移転費用や家賃などで来年度までに約2,900万円の経費が見込まれており、さらに再移転の費用も発生します。引越作業による業務への影響なども考え

ば、あえて一部移転を行う必要性に疑問を感じざるを得ません。財団の予算は、その大きな部分を患者負担金が占めており、財政執行には合理性・効率性が求められます。全国協議会は、財団に対して、情報公開と一部移転の見直しを求めています。

●ハラスメント問題

昨年に新聞報道された財団事務局内部のハラスメント問題についても、全国協議会は昨年11月に質問状を提出し、財団からは「第三者委員会による調査終了後に詳細発表する」との回答がありました。2月下旬現在、未だにその調査結果は発表されていません。この問題は、天下り問題に絡めて国会質問でも取り上げられるなど、波紋は

●退職者問題と組合結成

さらに広がっています。さらに、この1年半ほどの間に、財団職員の退職者が異常な数に達しており、業務運営への影響や、採用コストの増大が懸念されています。11月26日には、「退職者増の背景には、財団幹部による恣意的な人事や、強権的な業務運営がある」として、事務局職員全員の正職員化などを求めて、財団職員による労働組合「骨髄移植推進財団ユニオン」が結成されました。これに対し財団側は団体交渉期日を引き延ばし、都労働委員会への救済申し立てが行われるなど、争議も懸念される事態となりました。その後開催された団体交渉でも、労使の協議は進展し

ていないようです。その一方で、残業代の不払いが発覚し追加支払いが行われるなど、事務局の管理能力を問われる事態も明らかになっています。

責任ある対応を！
ドナー登録者数や移植数が大幅に伸びているなか、事務局運営をめぐる内外の混乱により、患者救済を目的とする骨髄バンク事業への悪影響が出ることは、なんとしても避けなければなりません。骨髄移植推進財団の経営責任を持つ理事会には、諸問題を早期に解決する責任があります。また監事や評議員会による理事会への監督・牽制機能も不十分です。さらに、所轄官庁である厚生労働省にも、財団に対する適切な指導が強く求められます。全国協議会としても、重大な関心を持って事態の推移を見守っていきたく考えます。

プルデンシャル生命から 佐藤きち子患者支援基金へ寄付

1月27日プルデンシャル生命から佐藤きち子患者支援基金へ86万円の寄付を頂きました。



今年お正月に行われた箱根駅伝において、骨髄バンクPRに参加し、ご協力頂いた社員の数々×10000円/1人の金額です。(活動内容は前号で紹介しました) きち子基金は過去2度枯渇となり、厳しい運営が迫られていますが、「経済的な理由で骨髄移植が出来ない患者さんのために」という佐藤きち子さんの遺志を受け継ぎ、今後患者さんの為、有意義に活用(運用)してまいります。本当にありがとうございました。

全国協議会設立15周年記念事業 「いのちの輝き展」全国で開催中

●札幌

1月20日から22日までの3日間。大通地下街オーロラプラザで開催しました。

来場は、3日間でおおよそ650人。札幌駅周辺に、人が集中するようになった現在、まずまずの来場ではないでしょうか。「MAMO」のメッセージ、あやちゃんの絵、レシピイベントとドナーの交換した手紙を展示しました。

来場者は非常に関心を持って見てくれ、中には「孫を病気で亡くしたので関心がある」という人や「これから提供する予定です」という女性もいました。張りつきは少しきつかったですが、やってよかったというのが

感想です。30万人のドナー獲得のため、このような催しも重要なツールとなると思われました。(三上) ●奈良 なら骨髄バンクの会では、去る1月21日奈良県社会教育センターに於いて、奈良県PTA協議会との共催で、「いのちの輝き展」を開催しました。当日の設置・撤収は天理青年



●神奈川 神奈川県PTA協議会では、1月28日JR川崎駅地下街アゼリアサンライイト広場でのドナー登録会で、「いのちの輝き展」を同時開催しました。さすが1日約30万人が乗降する県内第2の大きな駅。川崎市内外の登録会にもかわららず、82名の方が登録して下さいました。いのちのメッセージは、忙しい都会人の足を止め、心をも動かしたようです。 また2月11・12日は横浜市港北区のエンゼル幼稚園で園児の



●東京 去る2月6日より8日まで「いのちの輝き展」が、あやちゃんの地元である東京都三鷹市の市役所市民サロンで開催されました。

あやちゃんの絵が三鷹市の公的施設で展示されるのは、1994年から始めて開催された三鷹市美術ギャラリーでの「あやちゃんの贈り物展」以来です。マモ展は三鷹市でははじめての開催で、「いのちのねだんはいくらですか」の額の前で、涙を流しながら守君の生きた証を見つめる姿が印象的でした。 今回の「いのちの輝き展」には、市役所の多くの職員を始め300名ほどの方が足を運びました。後援した三鷹市社会福祉協議会が準備から会場撤去までサポートし、次の社会福祉協議会の献血活動時、併行のドナー登録を行う意向を表明しました。 また、会場準備と撤去には、あやちゃんの弟の健明君(中2)が友達にも呼びかけて、活動してくれました。(三瓶)

15周年記念事業協賛金・協賛品・一般寄付 (1月23日~2月19日)

東京両国ライオンズクラブ	60,000円
東京大塚ライオンズクラブ	20,000円
東京荏原ライオンズクラブ	20,000円
東京小金井ライオンズクラブ	20,000円
東京尾張町ライオンズクラブ	20,000円
瑞浪根柢ライオンズクラブ	20,000円
	(敬称略)



各地のたより
各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

高知 実感

2月11日、高知商工会館にて第13回高知県骨髄移植講演会が開催されました。会場は短大生活衛生科や看護科生徒ら一般を含めて273名と立ち見が出る程の満席状態でした。当会依光代表の主催者挨拶、橋本大二郎高知県知事の来賓挨拶

ブロック別ボランティアセミナー

●関東甲信越

2月18・19日に埼玉県川越市の湯遊ランド・ホテル三光で群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨の6団体から29名が参加して開催されました。

1日目には、各地の活動報告の後、ドナー登録会についての意見交換が行われました。今後各地での活動の参考になればと思っています。

2日目には、全国協議会に対しての意見・要望、財団諸問題について活発で熱い意見が飛び交いました。

さくら薬局白金台店 (東京都港区)

さくら薬局白金台店は、港区白金台にあります。処方箋の調剤を主にしている薬局です。少し歩くとおしゃれな店が立ち並びプラチナ通りがあり、落ち着いた雰囲気の中にも都会的な香りの漂うロケーションに位置しています。店の近くには東京大学医学研究所付属病院があり、

の貴重な体験談が披露されました。体験談発表後には平成17年度における6名のドナーに下司初代会長から感謝状と記念品の贈呈が行われました。

テレビや新聞で今回の講演会の様子がたくさん伝えられ、県の意識が高まっていることをしっかりと感じた1日でした。



「あの大谷貴子さんが太田にやってくる!」と広報誌を見た市民から多数の問い合わせがありました。



その20

血液疾患の方や骨髄移植をされた方も時々来られることもあるため、1人でも多くの患者様のお役に立てていただけるようにと支援募金箱を投薬カウンターに設置しております。今後も適切にお薬をお渡しすることが出来るよう、励んで参りますのでよろしくお願致します。(さくら薬局 雨宮様より寄稿)



心からのご寄付に感謝申し上げます

1月23日～2月19日	
(株)タクトコーポレーション	現金 30,000円
(株)サクラホーム	現金 5,000円
(株)エイコー堂	現金 100,000円
骨髄バンクチャリティライブ実行委員会	現金 19,960円
日本移植者協議会	現金 10,000円
ガールスカウト神奈川県第59団	現金 10,000円
(株)生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 滋賀県協会	現金 50,000円
(株)生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会 和歌山県協会	現金 50,000円
上原一洋	現金 100,000円
飯島孝枝	現金 1,000円
高橋和子	現金 5,000円
中村恵美子	現金 1,640円
吉本哲也	現金 1,000円
塩谷圭	現金 1,000円
鈴木純子	現金 1,340円
住友スリーエム株式会社	現金 100,000円
埼玉骨髄バンク推進連絡会 (ピアノ三重奏)	現金 48,000円
久喜市立久喜東小学校	現金 10,000円
愛知県豊田市立藤岡中学校	現金 10,000円
岡崎市立甲山中学校	現金 100,000円
榎垣直幸	ハガキ 6枚
宮城県社会福祉協議会	ハガキ 763枚
●佐藤さち子患者支援基金	
ブルデンシャル生命保険株式会社	現金 860,000円
骨髄バンクチャリティライブ実行委員会	現金 100,000円
飯島孝枝	現金 1,000円
●白血病患者支援基金・募金箱	
やま内科胃腸科医院	現金 9,317円
すし兵衛	現金 9,898円
信照寺	現金 907円

ボランティアの仲間たち

山梨県骨髄バンクを推進する会の会長である、高遠勲さんを紹介いたします。高遠さんの長男の翼君は5歳のときに骨肉腫と診断され、辛い闘病生活の後、骨髄移植を経て健康を取り戻し、現在は元気に中学校に通っています。以来、高遠さんは、骨髄移植の推進のため積極的な活動を続けており、毎月開催されるドナー登録会で説明員を務めたり、骨髄バンクチャリティコンサートを開催するなど活躍しています。趣味は、バイオリンの製作とピアノ演奏、晩酌など多彩?な



一番左が高遠さん

最新医療情報 その⑦

がん休眠療法

癌が1ミリ以上に大きくなるには、栄養と酸素を運ぶ血管が不可欠です。通常、癌細胞が血管新生を促進する因子を産生し、自分が大きくなるのに都合がよくなるよう多くの血管を導きます。この作用を利用して、血管新生を抑制することにより腫瘍の増殖を抑える治療ががん休眠療法です。新生血管の抑制のため、現在存在する腫瘍を殺すことは難しく、縮小させる力は弱いが、長期間そのままの状態を継続することが可能です。

現在の抗癌剤治療は、がんの縮小を目的(最終的な目的は延命)とし、それを達成するため、「より多く」という発想で、最大耐用量が投与されています。しかし、種々の矛盾、問題点が出ています。これを解決するため、抗癌剤の投与量を半分にする、医師の経験からさじ加減をするなどの方法がとられてきましたが、エビデンスを重視する現在の治療法からはまったく無視されてきました。

休眠療法では継続できる副作用で留まるよう抗癌剤の投与量を個々で設定します。最大継続可能量は個々で2倍以上の開きがあり、最も低いグループは従来の最大耐用量の三分の一程度です。また、重要なのは高いグループと低いグループで効果に差が認められないことです。つまり、増殖の抑制を得るための適量は個人によって異なることを示しています。

がん休眠療法とは、無理にがんを小さくすることを目指す、大きくならないようにすれば良いという発想の転換です。がんは存在自体が危険なのではなく、大きくなって初めて人が死に至る病気だからです。従来までの化学療法の効いたか効かなかったかの基準は癌の大きさを基準としたものでした。つまり、小さくなった状態でどれだけの期間維持できたかを指標にしているのです。しかし癌の縮小が必ずしも癌患者の予後(生存率)を反映しているわけではないのです。

前回、抗癌剤治療効果と画一性の限界を述べましたが、ごく少数の奇跡を目指すよりも、多くの方が自分に適した現実的に継続可能な抗癌剤治療を行うことが大切です。そのためには休眠療法も考慮すべきだと考えます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●ドナー登録者の累計数が「30万人」を突破
1月の新規ドナー登録者数は4,464人と前月上回り、昨年10、11月に続く「過去3位」となりました。これにより、平成4年1月にスタートしたドナー登録受け付け累計数は30万人を突破しました。

現在登録者数23万6,242との差(6万3,786)は、年齢超過や自己都合などによって登録が取り消された人数となります。昨年8月から急激な伸びがみられます。

●高校卒業・短大&専門学校入学用のチラシを発行・配布
ドナー登録年齢の下限が「18歳以上」となってから間もなく1年となりますが、折から卒業・入学シーズンとあって、18歳以上の方々を対象にしたドナー登録呼びかけのチラシ(A5判フルカラー両面印刷)が作成されました。登録者増の勢いを期待して実現にこぎつけたものです。

総合タイトルは「18歳の証明」です。卒業バージョン=写真<上>、入学バージョンの2種類があり、表面はそれぞれにふさわしいイラスト(男女一組)をあしらひ、裏面(共通=写真<下>)で「ドナー登録の流れ」をイラスト入りで紹介しています。

卒業バージョンは全国の高校5300校、入学バージョンも全国の短大・専門学校5400校に「見本」を送付し、各校で配布していただける枚数を確認して式に間に合うようお送りしており、すでに10万枚を超える依頼がありました。このチラシをご希望の方は、必要枚数を財団広報渉外へ連絡してください。

骨髄バンクNOW

●「日本骨髄バンクニュース」同封の募金協力チラシについて
昨年12月5日発行の日本骨髄バンクニュース第27号に同封した募金協力に関するチラシについて、国民の皆様からの寄付金が「患者負担金免除制度」に使用されるかのような誤解を受ける——との指摘がありました。すでに2月1日にホームページのWhat's Newのページでも説明しております。

●財団の会議開催予定
傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局までお申込みください。

医療委員会	3月4日(土) 10:30~14:30	廣瀬第2ビル地下会議室
常任理事会	3月10日(金) 17:00~19:00	廣瀬ビル2階会議室
理事会・評議員会	3月29日(水) 14:00~17:00	法曹会館

●日本骨髄バンクの現状(2006年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,105	4,464	236,242	300,028
患者登録者数	156	187	3,156	19,884
骨髄移植例数	70	59	-	7,076
20歳未満ドナー	240	258	2,200	-
51歳以上ドナー	262*	195**	2,134	-

(注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*51歳以上ドナーの延長数 **51歳以上ドナーの新規登録数

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会